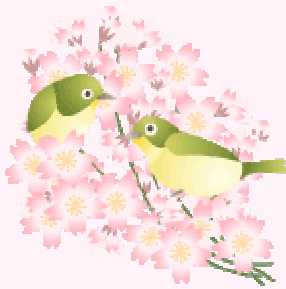


bethel hospice letter spring

ホスピスだより

tender loving care vol.15



松山ベテル病院 ホスピス病棟
〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地
TEL 089 (925) 5000
FAX 089 (925) 5599
ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院

2013年もリレーフォーライフ in えひめに参加しました。



2013年も10月12日～13日に「リレーフォーライフ in えひめ」が行われ、聖愛会（松山ベテル病院・道後ベテルホーム・ベテル三番町クリニック・ベテル在宅診療部）からも参加しました。ホスピス病棟からも多くのスタッフが参加し、襻をつなぎました。リレーフォーライフとは、『がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合う』チャリティーイベントです。

世界20カ国、国内では40カ所以上で開催され、世界中で毎年400万人以上が参加しています。夜には手作りのルミナリエにローソクで明かりを灯し、その明かりの中を歩きます。（表紙には、ルミナリエを掲載しています。）



『ベテルの3年間を振り返って』



越智Drのつぶやき

(ホスピス医・内科医 越智 拓良)

ベテル病院にお世話になり、早や3年が過ぎようとしています。多くの患者さん・ご家族にお会いする中で、私なりに得た学びがあります。それは“家族ケアは患者本人がなす”ということに気付いたことでした。

1年ほど前に出会った患者さん(50歳代女性)です。自宅療養をサポートさせていただくため訪問診療・看護が開始となりました。当初の1ヶ月間は穏やかに経過し、食事や散歩などの時間を持つことができました。しかし次第に病状が悪化し、息苦しさが目立つようになりました。ある日あまりの息苦しさに往診依頼がありました。訪問すると、病状が大きく悪化しており、残された時間は数日ではないかと推測されました。手持ちの薬では対応が難しく、新たに注射を開始する必要があるそうです。診療所に注射・器械を取りに帰る間の、体の辛さを何とかしないとはいけません。予め自宅に保管しておいた坐薬を挿入しました。そして“すぐに戻ってくるから”と伝え、急ぎ用意を済ませて戻ってきました。

医療者の目から見て、そのときの患者さんの状態は決して楽ではなかったと思います。でも、“調子はいかがですか?”との私の問いかけに、女性は“随分楽になりましたよ”と満面の笑顔で答えてくれました。緊張していた家族の表情が緩んだことは言うまでもありません。しかしそれ以上に、実を申しますと医療者である私たちが一番救われた思いがしたのです。女性は、自分を取り巻く周囲(家族や医療者)の状況を敏感に察知し、その場に最も適した言葉を端的に選ぶことでその空気を一変させたのです。“患者さん本人が行う家族ケア”の真髄を垣間見た思いでした。

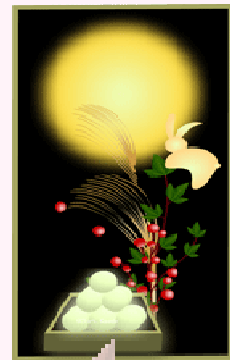
これまでも同様の経験はあったかもしれませんが、しかし私自身に理解しようという姿勢がなかったのだと思います。少しずつ緩和ケアに触れその理解が深まりつつあったこの時期に初めて気づくことのできた出来事であり、私にとって一つのマイルストーン(節目)となりました。

今後も緩和ケアに従事していく中で、いろいろな考えに直面すると思います。緩和ケアの重視する“個別性と多様性の尊重”を胸に、多くの学びを得ていきたいと思っています。



芋炊き・お月見

ベテル病院の増築・改修に伴いガーデンが少し狭くなり、ガーデンでのイベントが開催できるか心配でしたが、盛大に行うことが出来ました。今回は患者様ご家族の友人によるコーラスや、満月が見られた事もありとても幻想的な雰囲気でお過ごしいただくことが出来ました。多くの患者様から「入院している事を忘れていた」と言う声が聞かれました。



2013年の思い出 ～旅編～

5月にカンボジアへ行ってまいりました。松山空港から上海を経由し、カンボジア首都プノンペンへ。空港に着いた時の印象は「この空気、気持ちいい！」でした。

翌日、バスでシェムリアップへ向かいました。約6時間バスに揺られました。舗装された道や赤土の道、凸凹道等、いろいろな道がありましたが、ツアーの人数は9人と少人数だったので、バスの中を贅沢に使わせてもらい、まずまず快適に過ごさせてもらいました。



カンボジアの道には、いろいろな国が協力して整備した道路があります。

現地ガイドさんによると「日本人が作った道路は10年経っても凸凹しない」と。日本人スゴイ！！



シェムリアップには、世界文化遺産であるアンコール遺跡群があります。アンコールワットへは西参道から入り、左右にある聖池には「逆さ富士」ならぬ「逆さアンコールワット」を見ることができました。

現地の人々は親切で笑顔がステキで、子供たちのキラキラとした目を見て、とても癒されました。

(4階西フロア 看護主任 實好 央子)



ボランティア募集しています！！



病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。※「聖愛会ボランティア説明会」（無料）の受講が必要です。心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。

TEL：(089) 925-5000 FAX：(089) 925-5599 E-mail：volunteer@bethel.or.jp
(ボランティア委員会 担当：森)



ホスピス献金をお願いします！！

ホスピス献金は、ホスピス病棟や難病病棟の援助等、(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★ 現金送金 ★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会 (松山ベテル病院内)

★ 郵便振替口座 ★

口座番号：01610-2-25364 名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください

編集後記

2020年、東京オリンピックの開催が決定しました。なんとなく、オリンピックは外国でするもの…という感覚でしたが、東京で開催されるので、寝不足になることはなさそうです。6年後、日本はどのような姿をみせてくれるのでしょうか。楽しみです。

編集委員 越智・實好・稲田・戸田